

令和7(2025)年度 下都賀地区教育相談連絡会第1回研修会を開催しました

日 時： 令和7(2025)年5月12日(月)

会 場： 小山市桑市民交流センター マルベリー館

参加者： ・下都賀地区各市町教育相談機関の関係者

・下都賀地区各市町教育支援センター担当者

・下都賀地区各市町教育委員会教育相談関係担当者

・県南健康福祉センター福祉指導課・健康支援課担当者

・各市保健福祉部・福祉事務所福祉部家庭相談員

・栃木県教育委員会SSW

・下都賀地区小・中・義務教育学校教育相談担当者又は不登校児童生徒に関わる教職員

1 研修内容について

○ 目的 (1) 教育相談に関わる今日的な話題や課題について研修を深め、教育相談に関わる担当者の資質の向上を図る。

(2) 不登校や引きこもり傾向のある児童生徒、その保護者への対応やカウンセリングについて学ぶ。

○ 内容 講話「児童生徒へのかかわり～不登校の未然防止の視点から～」

講師 栃木県総合教育センター 教育相談部 塚越 道生 副主幹

2 本研修で学んだこと(参加者が記入した〈研修の振り返り〉から)

○ 専門的な知識や技術があるに越したことはないが、そもそもの人間性というか、「どのように子どもや保護者と接するか」という点が重要だと感じた。若い教員が増えてきている中で、日頃の授業をはじめとする学習指導のあり方、子どもとの関わり方、学級経営について改めて大切に考えてほしいと感じた。

○ 児童生徒へのかかわり方について再確認させていただきました。今後、児童と接する中で、意識して安心感を与えられる言葉がけをし、児童の自信につながるようにしていきたいと思いました。本日学んだことを、教員相談担当として、他の教職員に伝えていきたいです。

○ 不登校の未然防止と聞くと、少し難しいことのように思っていたのですが、日頃の子どもとの関わり方などが未然防止の一つということに気づきました。子どもに安心感や自信をもたせるには、周りの声かけや関わり方で変わる部分があると思うので、これから子どもと丁寧に向き合っていきたいと思いました。

○ 不登校の未然防止に向けて、普段から子どもをありのまま受け入れるのことを意識的に行いたいと思います。グループ協議では様々な立場の視点での意見を聞くことができ、多くの学びがありました。

○ 不登校の生徒対応において、不登校の要因が複合的にあり、なかなか改善できないことに日々悩んでおります。今回の研修を受けて、不登校になる前の未然防止と初期対応の重要性を改めて感じました。

また、多職種の先生方とお話ができて、様々な方向性から不登校生徒や保護者に対応してくださっている方々がいることを再確認できました。勉強になりました。ありがとうございました。

○ なかなか不登校に関する講話を聞いたり、グループでの情報交換や共有をしたりする機会がなかったので、大変貴重な時間になりました。塚越先生がお話しされたように、私達の教室でも大丈夫!できる!と思える関わりを重ね、安心して活動できる居場所を提供し、少しでも学校とつながるように連携していければと考えています。

- 不登校のきっかけで、教員と児童生徒・保護者の見立てにギャップがあるということが気になりました。そのことを講師の先生がおっしゃっていた「今まで当たり前に行っていたことを不登校の未然防止と意識して、視点ととらえてやってみる」ことが、大きくかかわっていることがわかりました。
- 不登校の原因と感ずるものについて、教師と子供・保護者の間で大きなギャップがあるのには驚きました。その原因について詳しく知りたいと思いました。今回の研修で学んだことを日頃の指導に役立て、不登校の未然防止につなげたいと感じました。
- 不登校未然防止のために、学校現場では小さな変化を見逃さず、早期発見・早期対応に心がけていかなければと強く感じた。保健室からも、知りえた情報を担任と共有しながら、児童指導主任や特別支援コーディネータ等組織で動き対応していけるよう、心がけていきたいと思う。
- 不登校の原因は様々で複雑化している。学校の中での居場所の確保、自信につながる言葉かけを行うことが大切だと思いました。結果にばかり目を向けずに頑張っている過程にも目を向けて、スモールステップで取り組み、タイミングよく褒めることも大切だと思いました。
- 塚越先生が「～しなければならないという子どもたちが多い」とおっしゃったことに、まさにうなずいた。不登校には、保護者や友人、教職員からの理解や配慮が本当に重要だと感じる。教職員の工夫と言葉、行動等で、子どもたちが様々なことを前向きに捉えられるように工夫したい。
- 早期発見、早期対応と未然防止の違いがよく分かりました。全ての児童の笑顔のために未然防止の対応が日頃から必要だと感じました。また、子どもが大丈夫と思えるかかわりを重ねることが大切だと分かり、今一度、子ども視点で大丈夫と思えるかどうか、かかわりかたを見直していきたいと思います。教育相談担当として、研修での学びを他の職員にも伝え、全職員で子どもの笑顔を守りたいです。
- できる、大丈夫と思えるような関わりの大切さがよく分かりました。けれども、そのような関わり方をするためには、関わる大人のゆとりが必要だと思いました。
- 今年度、初めて教育相談を担当になり、児童生徒へどのような関わりを持っていけばよいのか悩んでいました。この研修で、児童生徒にできる!大丈夫!と思えるように、私たちは安心感を与えられるよう日々の生活の中で関わっていきたいと思います。成功体験を積むためのしかけをしていきたいです。

